

行雲流水

No.291 令和5年4月20日発行

鉄は、熱いうちに打て！！

校長 寒河江 正人

新採の佐藤竜輝さんと門脇若菜さんをお迎えし、はや3週。

「鉄は、熱いうちに打て！！」

尾花沢市内の中学校に奉職した20代。当時の星川剛、尾花沢市長の「決まり文句」だ。

かつて、先輩から本気で「打って、鍛えられたこと」は、今でも身に染みて、忘れない。

尾花沢中学校では、鈴木三郎校長から、「学級担任としての心得」をご指導いただいた。

「朝は、生徒より早く学級に行き、窓を開け、読書をして待ち、元気なあいさつで迎えろ！」

「帰宅前は、必ず教室を見回り、机イス等の整理整頓・ゴミ・戸締りを確認し、整えろ！」

「黒板には、朝登校した時に生徒がやる気や目標がもてるメッセージを書いてから帰れ！」

校長室に呼ばれて、厳しく叱られもした。

「むやみに生徒を放送で呼びつけるな。学級経営がちゃんとしてれば、生徒に頼めば済む！」

「学級経営の基礎・基本」となる考え方を教えていただいた。

「席替えや係活動など、学級の「人事権」は学級担任がもってるんだ。生徒に迎合するな！！」

もしかしたら、こんなことを書いても、ピンとこないと言われる世代がいるかもしれない。

しかし、「指導」に関する世代間の認識の違いはあるとしても、「不易な価値」というものは時代を越えても揺るがないと信じたいし、どうしても譲れないものがあるのは、事実だ。

「自らの職能を磨くこと・真摯に学び続けること」は、「プロ」であれば、当たり前だ。

「自らの職能を磨くこと・真摯に学び続けること」は、「プロ」であれば、当たり前だ。

仏教の教えに「新到3年、皓齒を見せず。」という言葉がある。

「新人たるもの、3年間は白い歯を見せることなく取り組みなさい。」という意味だ。

どんな職業に就いても同じだろうが、新人・新米の時代は「基礎・基本固め」の時期。

指導の基礎基本の知識・技術を身につけるには、「素直な気持ち」と「反復練習」が必要だ。

そして、ある程度、基礎・基本が身についたら、それを実践し、様々な経験で練磨する。

さらに、自分なりのやり方や技術を工夫・開拓し、実践を重ね、自分のものにしていく。

自分のやり方が見えてくるまでの時期は、わき目も振らず、がむしゃらに取り組むのだ。

それだけどっぴりと、のめり込まないと「成長・進歩」なんぞ、ありはしない。

就職したら、人生において「必死に取り組む時代」がないと、絶対に大成しない。

「鉄は熱いうちに打て！！」怠けりゃ、「なまくら」になる。私の「偽らざる実感」だ。